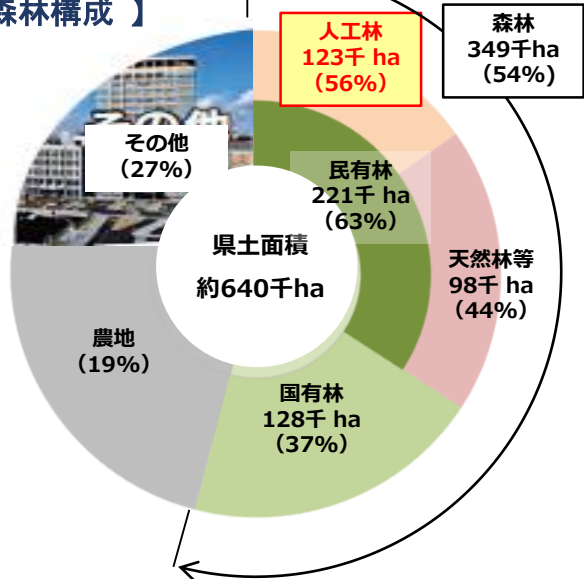


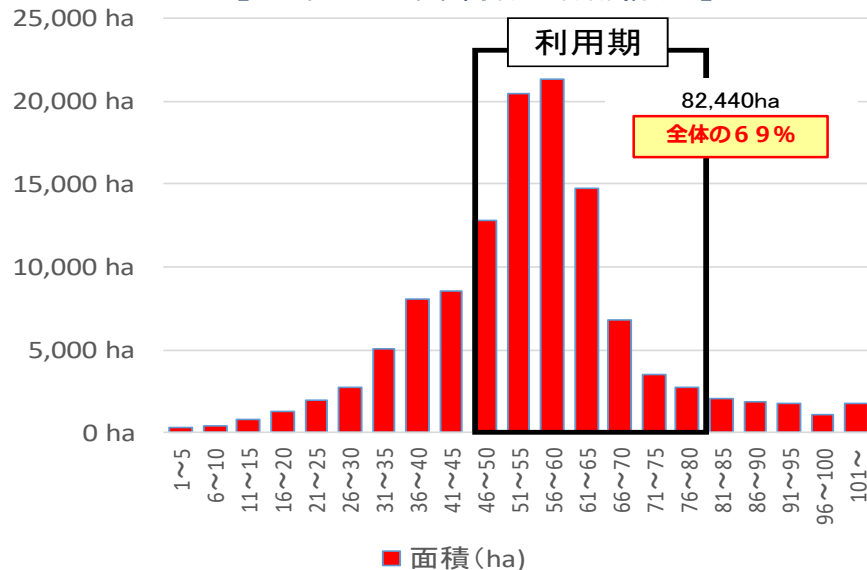
# 1 栃木県の森林・林業・木材産業の状況

【 森林構成 】



- 県土面積の約54%の約35万haが森林
- 民有林は約22万haで、その約56%の約12万haが人工林

【 民有人工針葉樹林の林齢構成 】



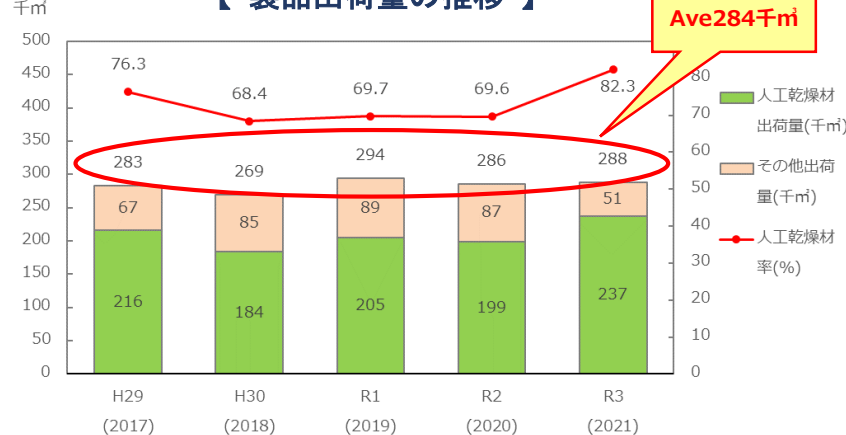
- 戦後植林したスギなどの森林資源が充実しており、そのうちの約70%が利用期に到来

【 素材生産量の推移 】



- H29~R3の素材(丸太)生産量は、概ね60万m³で推移

【 製品出荷量の推移 】



- H29~R3の製品出荷量は、概ね30万m³で推移

## 2 木材輸出の背景

- 国内：人口減少等により、住宅等市場規模縮小傾向

新設住宅着工予測：81万戸(2020) ⇒ 65万戸(2030) に減少

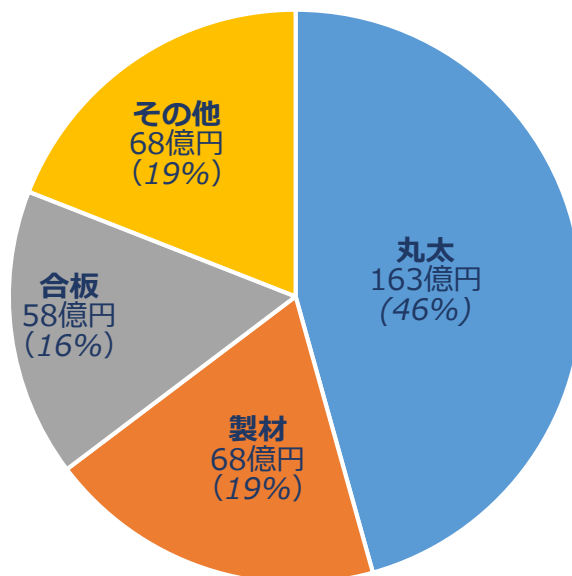
- 海外：新興国の経済成長等により、市場規模は拡大傾向

中国における「木構造設計規範」の改正によるスギ・ヒノキ等を活用した「木造軸組構法」の普及など

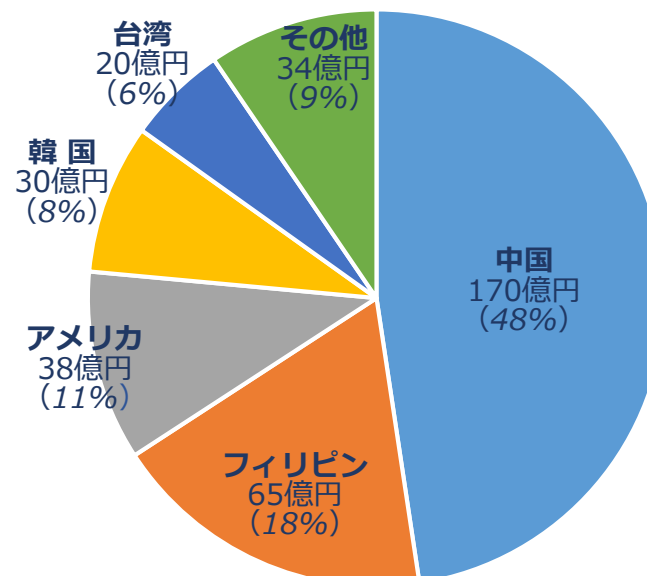
木材（県産）の『国際商品化』へ

日本の木材輸出額(2020年)

〔品目別〕



〔国別〕



### 3 栃木県の海外輸出トライアルの取組

#### 官民が一体になって、今だからこそ行える、とちぎ材の特長を活かした輸出の取組検証

- ① 輸出主体： **栃木県木材輸出促進協議会**（製材工場、輸出業者、木材団体、県）を組織化
- ② 輸出品目： **半製品**（乾燥済みの無垢材[仕上げ加工なし]）～ 相手国で自由に加工できる
- ③ 輸血量等： **20ftコンテナ1台分約25m<sup>3</sup>**（試行）を横浜港から輸出
- ④ 輸出相手： **台湾**～ 比較的高単価な役物需要が見込まれ、日本製品の購買意欲が高い

#### とちぎ材の特長



断面は、ほぼ真円



まっすぐで  
太い丸太

#### 半製品

大径材の外側を活用した無垢材  
⇒良質な板材が取れ、高付加価値が期待  
⇒陸送コストをカバー  
相手国の需要に応じた加工が可能

#### とちぎ材の強み

#### 栃木県木材輸出促進協議会



#### 輸出品一覧

- ヒノキ半製品 (板材・正角材)
- スギ半製品 (板材)



横浜港



高雄港

20ftコンテナ1台分(25m<sup>3</sup>)

#### 台湾

[売り先：木材団体]

#### 【ヒノキ半製品の利用】



内装 (化粧板)



建具 (ドア)

#### 【令和4年度の結果】

- ヒノキ半製品は、内装材としての需要が高い
- スギ半製品については、良さの理解に留まる
- 半製品の輸出を増やし採算性の検証が必要

#### 【令和5年度の方向性】

- ヒノキ半製品の多品目化
- スギ半製品の用途提案
- 輸血量の倍増 [25m<sup>3</sup>→50m<sup>3</sup>]